狂言バンジージャンプ

大河内健詞・佐溝貴史

［登場人物］
Ａ
Ｂ

明転。
舞台下手から A、B の順番に出てくる。

A　おーバンジージャンプって思ったより高いな。
B　おーほんとだバンジージャンプって高いもんなんすね結構ね。
　大丈夫ですか先輩、ちゃんと飛べますか。
A　大丈夫だよ、こんくらい飛べるよ。
B　ほんとですかー？あ、ロープありましたよ。
A　おー。
B　これ付ければいいんですかね。
A　じゃあつけて。
B　わかりました(A にロープを着ける)ぱち、ぱち、ぱち、よしこれで OK です。
A　おーついてるついてる。
B　じゃあ今度俺の分付けてください。
A　いいよ（B にロープを着ける）ぱち、ぱち、ぱち、はいこれで大丈夫。
B　OK すか。
A　ぶち！
B　ええ！！
A　あれ！？とれちゃった
B　とれちゃった、じゃないですよ！先輩！
A　あちゃー。
B　あちゃーってちょっと待ってくださいよ命に係わるんですから。
A　ごめんごめん、ちゃんと着ける。
B　ちゃんと着けてくださいよー。
A　大丈夫大丈夫。
B　あー急に怖くなってきた。
A　大丈夫だって、はい、ばち、ばち、ばち、あーここ間違えてた。
B　えー。
A　かち、はいこれで大丈夫。

B　　大丈夫ですかほんとに。
A　　大丈夫大丈夫。
B　　（たしかめる）あー今度は大丈夫だちゃんとついてる。
A　　あー、よし。
B　　準備できましたね。
A　　だな、じゃあ。

お互い飛ぼうとしない。

A　　え？
B　　え？
B　　先輩どうぞ。
A　　いや後輩でしょ。
B　　いやいやいや先行こうって言ったの先輩じゃないですか。
A　　いやいやいやお前がやりたそうにしてたし。
B　　いやいやいや先輩が。
A　　いやいやいや後輩が。
B　　いやいやいや先輩。
A　　後輩でしょ！　後輩でしょ！　後輩でしょ！
　　ここ日本だよ！　後輩が行くもんだよ。
B　　はー！？　なんだ余裕ねえ先輩だな。
A　　後輩行ってよ。
B　　はー、わかりましたよ、ちゃちゃっと行ってぴょーんって飛んでぴょーんって戻ってくるだけですからね。
A　　そしたら俺も飛んでやるよ。
B　　はい。じゃあ。（飛ぼうとする）
A　　はいさっさと行けよ。
B　　わかってますよ。
A　　ほい！
B　　あ！　あ！　やっべー。（戻ってくる）
A　　なに戻ってきてんだよ。
B　　大事なこと忘れてた。
A　　は、なんだよ。
B　　携帯の電源切るの忘れてた。
A　　え、なんで携帯の電源切るの。
B　　ほら、切っておかないと飛ぶときピリリってなっちゃうかもしれないし。
A　　なっても全然いいじゃん。
B　　うーん、でもほらそれにみんな切ってもらってるのに俺だけ切らないってのも。
A　　いやいやここバンジージャンプだから。切らなくてもいいよね。
B　　あー！！　そうか、切らなくてもよかったか！

A　なにしてんだよ、お前さっさと行けよ
B　うっかりしてたー、おかげで飛ぶタイミングを逃してしまった。
A　タイミング？
B　飛ぶタイミングを失ってしまった。
A　何だよ飛ぶタイミングってあんの？
B　あったんですよ、今だっていう時に思い出した。あーしまったなー。
A　じゃあ早くいけよ。
B　だから先輩もう先飛んじゃってください。
A　はー？　なんで？
B　悔しいなあー。お願いします！
A　もう……。しゃあなしだぞ。（飛ぼうとする）俺がね、ぱっと飛んでそういうとこみしてやるから。
B　見せてくださいよー。
A　ほらこんなの簡単だよ。
B　先輩なら余裕だ！　はいいきましょう！　はい！　はい！
A　あー！　しまったー！　忘れてたー。
B　何忘れてたんですか。
A　家賃振り込むの忘れてたー。
B　別に今じゃなくてもいいでしょう。
A　やーでも今日振り込まないと、大家さんめっちゃ怖いの。
B　えー。
A　あーでも大丈夫、携帯で振り込める（振り込む）あー振り込んだ振り込んだ。よかったー。
B　あーよかったですねじゃあもう心置きなく飛べますね。
A　やーでもちょっとタイミング失っちゃった。
B　はー？
A　や今飛ぼうとしてタイミングが…。
B　ちょっと先輩汚いなーそれ俺が使った手――
A　え、手？
B　とかっていうわけじゃないですけどー。
A　や、でもしばらくタイミングこない。
B　きったねー。
A　はいじゃあ行ってよ。
B　じゃあちょちょっと飛んじゃいますよ。
B　（途中で）あーあーあーやべーいっけねーこりゃいっけねー。
A　なんだよ。
B　しまったお母さんに電話しなきゃ。
A　は？　なんでお母さんに電話すんの？なにを？
B　電源はいんない。
A　さっきお前切ったから。

B　あーもしもしお母さ―留守電だ。
A　はーなにこの無駄な時間。
B　時間も無駄にしてしまったしータイミングも逃してしまったなー。
A　そうか、タイミングを逃したか。
B　どうしよー、先輩もう飛んじゃってくださいって言ってもどうせ戻ってくるでしょ。
A　たぶんね。
B　もうこれ埒あかないですよ。
A　埒あかない。どうすんの。
B　もう二人で飛びましょ。
A　そうしよ、二人で一緒に飛ぼう。
B　一緒に飛んだら恨みっこなしですから。
A　これさ、なんでなかなか飛べないんだろうな。
B　さっきから思ってたんですけど、下見ちゃうとすげー怖くなっちゃう。
A　そうそう、下見ると急に怖くなった。
B　ですよね。だから、前見てればいいんじゃないですか？
A　あーよし、前だけ見よう。
B　それで行きましょう。
AB　せーの。
B　ほら、これ結構ー余裕じゃないすか。
A　あー全然余裕だ。
B　なんか落ち着いてきた気がする。
A　おー。
B　そしたらね、思い出したんですけど。
A　なになに。
B　先輩ね、さっきからズボンチャック開きっぱなしですよ。
A　えマジで？
　（下を見る）わあああああああ！！！！！
B　わあああああ！！？？？？！！
A　わあああああああああ！！！！
B　びっくりしたー、急に何大声出してるんですか先輩。
A　下見ちゃったー。
B　なーにやってるんですかどっち指差してるんですか。
A　どうすんの？
B　もーチャックとりあえず閉めましょう。
A　チャック！　閉めるぞー。
B　閉めてください。
A　閉めたー、どうするー？
B　なんなんですかその指示待ち人間は。
A　俺にはもう判断能力がねーんだ、どうすんだ。
B　もうじゃあ仕切り直しましょう。とりあえず戻ってきてください。

A　　あーだめだ腰が抜けて戻れない。
B　　えーじゃあもう飛ぶしかないじゃないですか。
A　　よーしもう飛ぶしかねえ。もういってやる。
B　　決心しましたか。
A　　おう。でもな、絶対邪魔するなよ。
B　　わかりました。
A　　俺が、自分の飛びたいタイミングで飛ぶからな。
B　　先輩飛ぶっていうんだったら絶対じゃましないですよ！
A　　よし、絶対お前そこにいろよ。
B　　わかりました。ぜったい邪魔しないです。
A　　俺が自分で飛ぶから。
B　　はい。

A 飛ぼうとする

B　　（歌う）ろうで固めた鳥の羽、みるみる溶けて舞い散った、翼奪われイカロス―
A　　不吉！不吉だよその歌。
B　　とっさに思い付いた歌が。
A　　それかよ死んでほしいと思ってんの。
B　　いや。
A　　もういいから、もういくから。俺はもう決心した！よーし、せーの（飛ぼうとする）
B　　わー！！！！（驚かす）
A　　わあああああ！！！！！！
B　　わはははは！！　超びっくりしてる！！
A　　あ。
B　　あれ？先輩、もしかしておもらしですか？！
A　　ちが、あ
B　　おもらししてるー！　カッコ悪いー！はははは！！！（はける）
A　　（泣きながら）おまえ！絶対許さないー！！（はける）

A はけるのと同時くらいで暗転 FO
鼓の音
明転

A　　いよお
B　　よお
A　　思うたより高うござるのう、次郎冠者。
B　　これはこれは思うたよりも高うござるのう、太郎冠者。
A　　いよう
B　　いよういよう

B　太郎冠者太郎冠者。
A　何じゃ次郎冠者。
B　こちらに縄がござる。
A　おう、この縄をわしに結わえよ。
B　あいわかった。ぱちり、ぱちり、ぱちり。これでよし。
A　これで良しと―
B　ぶちり
A　ぶちり？！
B　おう
A　おう
B　これはこれはなんということ。
A　これはなんということ。縄が切れてしもうた。
B　縄が朽ちておった。
A　なぜ縄が朽ちておる。
B　どんな縄でもいつかは朽ちるものでござる。
A　こんなところでは無常観を語っても仕方がない。
B　おう、ようみると隣に新品と書いた縄がござる。
A　このようにでかでかと書いてあるのに何故気づかぬ。
B　あらためてつけてしんぜよう。
A　殺意を感じる。
B　ぱちりぱちりぱちり。これでよし。
A　こんどはよいな。うむ、しっかりとついておる。
B　では次はわしのぶんをお願いいたす。
A　あいわかった。この縄をつければよいのだな。うむうむうむ。にゅるり。
B　にゅるり？！
A　にゅるり、にゅるり。
B　太郎冠者太郎冠者。
A　なんじゃ次郎冠者。
B　先ほどからわしの体に巻きついておるものがにゅるりと言っておる。
おぬし何を巻きつけておる。
A　当然縄―のような大蛇であった。
B　なんということ。先ほどからとても強く締め付けられておる。
A　締めておる締めておる。
B　苦しゅうてかなわぬ。はよう解いてくれ。
A　あいわかった。
A　よしよし、よしよし。お帰りなされ。
B　何をやっておる。
A　大蛇は神の使いなり。きっと良いことが起きよう。
B　天に召されてしまいそうじゃ。
A　ではこの明らかな縄をつかおう。

B　明らかならば最初からそちらを使うがよい。
A　ばちり、ばちり、ばちり。これでよし。
B　どれ。こんどは具合がようござる。これで準備が相整った。
A　では。
AB　太郎/次郎冠者。
B　これはこれは太郎冠者、なぜわしが先に飛ばねばならぬ。
A　それはそなたが次郎であるからじゃ。
B　あいわかった。
A　わかりがよい。
B　（飛ぼうとする）よーお、よーお（もどってくる）
A　なぜ戻ってくる。
B　大事なことを忘れておった。
A　なんじゃ。
B　ポケベルの電源を切り忘れておった。
A　なぜ電源を切る必要がある。
B　切らねばピリリとなってしまう。
A　なってもよいであろう。しかし、なぜポケベル？
B　今度はちと昔の時代の話にござるゆえ。
A　次郎冠者、昔は昔でもこれは一昔前じゃ。
B　おおそれは大事なことを見落としておった。
A　大事なことを忘れておるなあ。
B　しかしそのおかげでタイミングを逃してしもうた。
A　タイミングを失うたか。
B　太郎冠者先に飛んではくれぬか。
A　あいわかった。
B　素直じゃ。
A　よお！よお！（飛ぼうとして戻ってくる）
B　これはこれはなんとしたなんとした。
A　大事なことを忘れておった。
B　何を忘れておった。
A　租庸調を納めるのを忘れておった。
B　太郎冠者、それはちと時代が昔すぎる。
A　大仏ができるかできぬかのころの話じゃ。
B　時代考証は難しゅうござる。
A　難しゅうござるのう。しかしまたタイミング——
B　ではわしが。
A　自ずから。
B　よーお、よーお（飛ぼうとして戻る）
A　なぜ戻る。
B　大事なことを忘れておった。

A　なんじゃ。
B　インシュリンの注射の時間であった。
A　命に係わる。早うせい。
B　失礼いたす。ちくり。(変な動き)
A　今のはなんじゃ。
B　血糖値が下がったさまを表しておる。
A　ではわしが。
B　こちらも自ずから。
A　よーお、よーお（飛ぼうとして戻る）
B　今度は何を忘れておった。
A　大事なことを忘れておった。
B　なんじゃなんじゃ。
A　このくだり、さっきより一回多し。
B　先ほどよりも一回多くござる。
A　段取りを忘れてしもうた。
B　太郎冠者、調子に乗りすぎて忘れては役者失格にござる。
A　（反省)。では。
AB　二人で一緒に。
A　前だけを向いて飛べばよいのだな。
B　その通りにござる。
AB　では。よーお、よーお
B　太郎冠者太郎冠者。
A　なんじゃ次郎冠者。
B　袴のチャックが開いておる。
A　なんと、袴のチャックが（下を見る）いよお〜〜！！！！
B　これはこれは太郎冠者、かように大声を出してなんとした。
A　下を見てしもうた。
B　なぜ下を見た。
A　袴のチャックが開いておると言うからじゃ。
B　開いておったであろう。
A　袴にチャックはのうござった。
B　ではなぜそもそも下を見た。
A　それが世の常。
B　まったくうまいことを言えておらぬ。
A　しかし、もう腰が抜けてしもうて戻ることができぬ。
B　ではもう飛ぶしかないでござらぬか。
A　うむ飛ぶしかない。しかし次郎冠者、決して邪魔をするではないぞ。
B　あいわかった。
A　間違っても押してはならぬぞ。
B　決して押したりせぬゆえ。

A　　よお、よお（飛ぼうとする）
B　　（唄う）祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。（A に近寄る）
A　　次郎冠者次郎冠者。
B　　なんじゃなんじゃ太郎冠者。
A　　近うはござらぬか。
B　　（小さい声で）近うはござらぬ。
A　　おお、近うはござらぬか。しかし、もはやこれまで。
　　（唄う）人間 50 年化天の内を比ぶれば、夢幻の如くなり。
B　　それは能にござる。
A　　いよ～お！
B　　ひざ、かくり
A　　あー！！！！　ひらりひらりひらり。あー！！！
B　　これはこれはおかしきことおかしきこと。太郎冠者が慌てふためいておる。
A　　じょう、じょうじょう
B　　これはこれはなんとしたなんとした。
A　　じょう、じょうじょう
B　　お主漏らしておるのではあるまいな。
A　　なんたることなんたること次郎冠者。
B　　はっはっはもらしておるもらしておる。（笑いながらはける）
A　　やるまいぞ、やるまいぞ。じょう、じょうじょう（はける）

A はけつつ暗転
鼓の音

おわり